



農村のよさから活動を広めよう ～U・ターンの若者に期待しよう～

プロジェクト総責任者・三浦 照男

ウッタルプラデーシュ (U.P.)州の人口は1億7千万人。北インドでも最大の州で、かつてはバングラデシュ、ネパール、そしてパキスタンに広がるヒンドスタン平原の文化の中心でした。しかし、農村に目を向けてみると、その面影は影を潜めているようです。若者の農業離れ、低所得、高い幼児死亡率、低識字率、男尊女卑、強固な伝統に縛られた社会等々がそのイメージを更に強めているようです。では、U.P.州の農村には「よい」ところは無いのでしょうか。必ずあると思うのです。そのよさをもっとアピールし、都会に出ていったものが、また農村で生きたいと思った時に、農村のよさが後押ししてくれます。農村のマイナス面だけを強調するよりも、農村の「よさ」をもっと前面に出す必要があるのです。

現代のように、非農家人口である都市人口が急速に増え始めたのは1900年代になってからです。古今東西を問わず、どの都市の人々にとっても、食べものを手に入れることは、最大重要な課題だったはずで、ですから、如何に都市が膨張しようとも、食べものの生産基盤である農村は全ての人々にとって絶対不可欠なのです。しかし、現在では益々農村が軽んじられているように思えるのです。実際、都会や農村の若者、並びに彼らの両親の多くは彼らが農村で仕事をする事自体、恥であると思っているのです。このような考え、感情がもっと蔓延してきたら、危機的事態になるのは必然です。

幸いにも農村から大都会へ行ったけれども、また農村に戻ってくる若者が結構います。いわゆるU・ターン組です。「都会の暮らしはよくなかった。インドの映画に出てくるような華やかな生活はほんの一握りで、ほとんどは毎日、奴隷のごとく昼夜問わず働くことを余儀なくされていた。しかも、約束の賃金は支払われなかった。村



インドハーブ入浴剤を作るバルゴナ村の青年。

に帰って何かをしたい。でも、何をすればよいのかわからない。農村の所得格差はある程度仕方がないが、農村にいる家族と楽しく暮らせる方を選びたい。」

更に、都会に留まりつつも、農村で生きたいと思っている若者もたくさんいると思います。急速に肥大する都市に飲み込まれて自分を見失いそうになる若者が多くいると感ずるのです。その時、もし農村のよさを再認識でき、かれらを受け入れる農村の器があれば、彼らがU・ターンする可能性は十分にあるでしょう。デリーの安宿に泊まり、早朝起きてみると階段の躍場近くの長椅子等で寝ている従業員を見かけます。私が近づくと起き上がり、怯えたようにどこかへ消えていきます。人間の生活ができるような待遇、給与は与えられていないのは直ぐにわかります。様々な理由があるにせよ、彼らの郷愁は計り知れなく強いことでしょう。

私は都会からU・ターンする若者に期待したいのです。彼らには他の農村居住者には無い貴重な経験があると思われるからです。都会はどのようなところかを知り、都市で築いたネットワークがあり、また都会で働いた経験等は必ず農村開発に役に立つと考えます。住民による農村のための活動がより活発化するかもしれないという希望が広がります。都会で歯を食いしばって苦勞に耐えたからこそ、農村のよさを理解できる貴重な人材はそのような人の中にもいると思います。そうであって欲しいと願わずにはいられません。



アーシャ事務局よりお知らせ

アーシャ定期総会が開催されました

5月24日(土) 那須塩原市健康長寿センターにて、アーシャ定期総会が開催されました。総会は参加者・スタッフの自己紹介から始まり、和やかな雰囲気ですスタートしました。



石原潔理事を議長に、前年度の事業報告、決算報告、本年度の事業計画、予算書が承認されました。また、新理事として山下逸喜さんの就任や、新規事業としてAOAC製品の国内販売強化のための収益事業の開始、事務局の移転などが承認されました。ご出席くださいました会員の皆様、本当にありがとうございました。

事務所を移転いたしました

昨年交流センターとして開設した場所に、事務所を移転する旨、総会で承認をいただきましたので、7月に事務所を移転いたしました。国内活動もさらにパワーアップしてまいりますので、応援よろしく申し上げます。皆様のご来訪も大歓迎です！数日前にご連絡いただければ、現在特訓中のチャイの試飲もしていただける、かもしれません！皆様のお越しをお待ちしております。

旧住所：栃木県大田原市富士見1-3828-70

TEL/FAX：0287-24-1126

新住所：栃木県那須塩原市南郷屋4丁目28-4

パストル南郷屋B棟202

TEL/FAX：0287-47-7840

派遣スタッフ雇用のご報告

2012年7月下旬から継続教育学部でインターンとして働かせていただきました大木恵利です。2013年7月から現地派遣スタッフとして採用され、農村調査調整、研修プログラムの副コーディネーターとして働いています。インドでの仕事は今年が2年目となりますが、1年目の反省点を振り返りながら今年度をより実りのあるものにしたいと思えます。『持続可能な農業・開発コース』では、「ノンフォーマルな実践重視」の長所を生かしながら、学生たちが主体となって実際の経験を通して学びを得ていく過程を巧みに創りあげていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。



インターン紹介

6月末よりインターンとして農村の収入向上事業(組合商品の販売、手工芸品開発)の仕事をしていただいている涌泉香織と申します。初めての海外在住なので、日本人とインド人の考え方の根本的な違いに驚かされながら、毎日楽しくすごさせて頂いています。



学生時代はフェアトレードや産地直売運動を卒論テーマにしていたので、このような形でアーシャのプロジェクトにかかわることが出来るととても嬉しいです。製品を通して、作る人と消費者をつなげ、より多くの方々にアーシャの活動を知ってもらおう架け橋になればと思います。

<国内イベント参加予定> 毎月第2・4土曜日 大日向マルシェ <http://ohinatamarche.jugem.jp/>

農業・化学肥料不使用で育てられた農産物やフェアトレードの品々が並びます。体にも心にも優しいマルシェで、出店されている方々がとても素敵な方々で、気持ちがあたたかくなります。会場は、那須町高久甲にあるOursDiningさんの隣の空き地。ぜひ足をお運びください。当会の出店日は月によって異なりますので、ホームページやFacebookをご確認ください。



●会費・寄付納入者名簿● 2013.4.16-8.10 ○は新入会員。順不問・敬称略

正会員・賛助会員の皆様、ご寄付をお送りいただきました皆様のご支援により、アーシャの活動が支えられております。皆様には心より感謝申し上げます。誤字・記載もれがありましたらご面倒でも事務局までお知らせください。

※個人情報の為、公開は控えさせていただきます。
実際の会報には記載させて頂いております。

■会費 個人正会員 5,000円 団体正会員 20,000円 終身個人正会員 50,000円 (正会員は総会議決権があります)
個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 10,000円 終身個人賛助会員 30,000円

■郵便振替 加入者名：アーシャ＝アジアの農民と歩む会 口座番号：00160-0-315147

特定非営利活動法人 アーシャ＝アジアの農民と歩む会

<事務局・交流センター> 〒329-2705 栃木県那須塩原市南郷屋4-28-4 B202 TEL/FAX：0287-47-7840

事務局 丹羽 寿美 君嶋 みのり E-MAIL：info.jp@ashaasia.org

アーシャ＝アジアの農民と歩む会ホームページ：<http://www.ashaasia.org> Facebook、twitterも随時更新中！